尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

校長通信

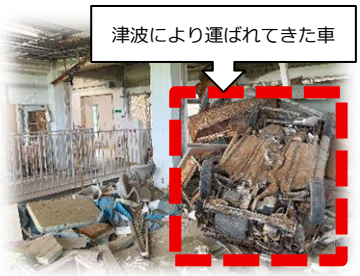
# 輝け！シン尾花沢中

第８６号
令和７年
９月 12 日

つたえゆかしい　校章よ　おおむつましく　丘かげに

## 「あたりまえ」への感謝～気仙沼市立階上中・梶原裕太さんの答辞から～

９月１日（月）は防災の日でしたが、前日の８月 31 日（月）に「宮城県気仙沼市東日本大震災遺構･伝承館」を訪れる機会がありました。この施設は、被災した「宮城県気仙沼向洋高等学校旧校舎」を震災遺構として地震と津波の爪痕を当時のまま残しています。小学校の修学旅行で訪れた尾中生もいるのではないでしょうか。




「安全教育」の面で非常にためになったことはもちろんですが「あたりまえ」であることへ感謝することの大切さが心に残りました。

語り部の佐藤さんの説明では、福島県の聖光学院野球部が**「今やれていることがあたりまえでない」**ことを実感してほしいという監督さんの思いで伝承館を訪れたということでした。

また、最後に視聴した気仙沼市立階上中学校の梶原裕太さんの卒業式答辞の動画にも「あたりまえ」に感謝するという内容がありました。

本日は未曽有の大震災の傷も癒えないさなか，私たちのために卒業式を挙行していただき，ありがとうございます。

ちょうど 10 日前の３月 12 日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは，そのキラキラ光る日差しの中を，希望に胸を膨らませ，通い慣れたこの学舎を，57 名揃って巣立つはずでした。

前日の 11 日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き，10 数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ，内外から高く評価され，十分な訓練もしていた私たちでした。しかし，自然の猛威の前には，人間の力はあまりにも無力で，私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには，むごすぎるものでした。つらくて，悔しくてたまりません。

時計の針は 14 時 46 分を指したままです。でも時は確実に流れています。**生かされた者として，顔を上げ，常に思いやりの心を持ち，強く，正しく，たくましく生きていかなければなりません。**

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし，**苦境にあっても，天を恨まず，運命に耐え，助け合って生きていくことが，これからの私たちの使命です。**

私たちは今，それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。**どこにいても，何をしていようとも，この地で，仲間と共有した時を忘れず，宝物として生きていきます。**

後輩の皆さん，**階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が，いかに貴重なものかを考え，いとおしんで過ごしてください。**先生方，親身のご指導，ありがとうございました。先生方が，いかに私たちを思ってくださっていたか，今になってよく分かります。地域の皆さん，これまで様々なご支援をいただき，ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

お父さん，お母さん，家族の皆さん，これから私たちが歩んでいく姿を見守っていてください。必ず，よき社会人になります。

私は，**この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。**

最後に，本当に，本当に，ありがとうございました。

平成 23 年３月 22 日
第六十四回卒業生代表　梶原 裕太

ぜひ、Youtube 等で視聴してください。涙なしには視聴できません。
「あたりまえ」に感謝して生きていくことを誓った日となりました。　【文責：校長 工藤雅史】